



平成26年度共同機構研修計画(26年4月～26年11月)

1 平成26年度の研修会のねらい

乳幼児一人ひとりの豊かな育ちを保障する保育者のかかわりや子どもの育ちを理解し、保育の振り返りを行うことで改めて保育を見直し、保育の質の向上と、今日的な課題を見据えた研修とする。

上記のねらいを達成するために、以下の4項目について研修を計画する

- ①保育の質の向上について ②子育て支援 ③気になる子どもと保育 ④保幼小連携

2 平成26年度の研修予定

日 時	講座名・内容等	講師名
4月21日(月) 15:00～17:00	子どもの心に目を向ける保育の在り方 ～子ども・子育て会議・これからどうなる?～ 新たな「子ども・子育て会議」が様々な市町村で動き始め、保育園(所)・幼稚園の在り方を考えていく岐路に立っている。認定子ども園や新たにだされる幼保連携型認定子ども園保育要領(仮称)等も盛り込み、今だからこそ大切にしたい保育の質について学ぶ。	鯨岡 峻 中京大学教授
5月21日(水) 15:00～17:00	集団が苦手な子どもへの関わり方 4～5歳児の子どもをを通して現場の先生方と意見交換を重ねてこられた事例を通して、どんな人も、誰がいても、居心地の良い空間の大切さについて学ぶ。	弓削 マリ子 花ノ木医療福祉センター小児科医
6月16日(月) 15:00～17:00	主体としての心を育てる保育～今、大切にしたい保育の質～ 子どもの心を育てることの意味、「力」より先に「心」を見ていくこと、子どもの気持ちを理解し、親子ともに受け止める保育の在り方、心が大切にされる保育について学ぶ。	大倉 得史 京都大学大学院 准教授
7月11日(金) 15:00～17:00	園児のその先の育ちを支えるために ～今、保育者にできること～ 子どもの気持ちに寄り添い、乳幼児期にしっかり土台を育む大切さと、たくさんの事例からその関わりを学び、また、関わりの難しい子どもへの具体的な対応を学ぶ。	森崎 和代 女性 ライフサイクル 研究所
11月6日(木) 15:00～17:00	子どもの育ちをつなげる接続のあり方 ～遊びの中の育ちや学びの理論と実践～ 目に見えにくい幼児期の保育や子どもの育ちについて、小学校への接続の視点で振り返り、その重要性について語れることの大切さについて学ぶ。	木下 光二 鳴門教育大学教授
11月20日(金) 15:00～17:00	保育園(所)・幼稚園における他機関連携 ～予防的支援の観点から～ 現代の保育・教育現場で向き合う家庭や子どもの状況の把握とその対応のための他機関との連携について学ぶ。	橋本 真紀 関西学院大学准教授

夜間講座

10月22日(水) 18:30～20:30 総合教育センター 永松記念ホール	発達障害の理解と発達障害乳幼児への具体的な関わり方 発達障害の子どもの発達の道筋や特徴について、そして発達障害のある子どもたちが保育所や幼稚園で生き生きと過ごすことのできる保育者の具体的な関わり方や保護者対応について学ぶ。	竹田 契一 大阪医科大学 LDセンター顧問
---	---	------------------------------------

特別研修(児童家庭課・保健医療課と合同)

9月11日(木) 15:00～17:00	虐待の現状と予防 近年社会問題となっている子どもの虐待の実態と保護者の状況から、虐待が起こる要因を知り、家庭だけの問題としてではなく、地域や社会全体で取り組む必要性について学ぶ。	倉石 哲也 武庫川女子大学教授
-------------------------	---	---------------------------

* その他、「教育委員会 保・幼・小・中連携推進事業」(学校指導課初等教育担当)との合同研修及び子ども・子育て支援新制度の関連の研修を教育委員会と保健福祉局との合同研修として検討する。

講師 河崎 道夫 高田短期大学 子ども学科 特任教授

私立幼稚園協会共催

子どもたちに豊かなあそびを

子どもは一人ひとりかけがえのない存在であり、計り知れない可能性をもっています。統計から導きだされた「発達」に照らし合わせて、標準から進んでいる、遅れているのを見るのではなく、その子その子の様々な発達をもっと大きく深く捉えていく必要があります。

子どもの遊びの世界は、これまで歴史的に豊かになり蓄積されてきました。しかし、現代の子どもたちは人工的な居住空間の中で自然とやりとりするということなく、たくさんの遊び世界を受け取ることもなく育ちつつあります。また、異年齢集団の崩壊などにより、真似たり、憧れたりする経験や、難しいことに挑戦して「出来た」という達成感を味わうことが少なくなってきました。

私たちは、豊かになってきた遊び世界が生き続ける中で、一人ひとりの可能性が花開くような発達を実現するために、子どもたちにもう一度豊かな遊び世界を手渡さなければいけません。道具を使った遊びや自然とやりとりする遊び、対立を楽しむ交流遊び等、様々な遊びを通して、子どもがワクワクドキドキと目を輝かせ夢中になることが大切です。先生が憧れの対象になることも大事ですが、地域の色々な人に、保育園(所)・幼稚園に来てもらい、得意なことを披露してもらう等子どもたちの憧れをつなぐのが保育者の役割です。すぐには出来ないかもしれないけれどいつか出来るようになってほしいという憧れの気持ちを育て、逸脱や失敗をおおらかに認め、「やれた」「おもしろかった」という体験をした時にその子その子のかけがえのない土台が出来るのではないかと思います。

子どもたちはそのような輝きを土台にして自分の人生の物語を作っていくのでしょ。目の前の子どもたち一人ひとりの発達の物語と一緒に作っていただきたいと思っています。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。[貸出要項へ](#) 講義の詳細は、[要録ページ](#)をご覧ください。[要録ページへ](#)

講師 西川 由紀子 京都華頂大学教授

保育士会共催

かかわりあって育つ子どもたち

子どもたちの発達は一人ひとり違います。発達を学習する時、人と人を比べるのではなく、一人ひとりの道行きの援助をしていくという捉え方をしてほしいというのが私の願いです。

子どもたちが成長していく過程には人との『かかわりあい』がとても大切です。それは生まれて間もない頃から始まり、まずは自分が信頼する人、大好きな人は誰かという信頼関係を作るという意味で人見知りが始まります。大好きな人との信頼関係のもと、子どもたちは安心して自己主張し、それを受け止めてもらえることで自分だけではない周りの人を思いやる気持ちが育ってきます。「自分が大好き」と思える2歳の時期にいっぱい褒めていくことで友だちのことを思いやれる3歳の時期を迎えます。その相手を大事にできる「すてきな私」だけれどまだまだ自分をコントロールできないのがこの時期で3歳には「～しなければ～できない」という伝え方ではなく、「～したら～できるよ」という伝えの方がわかりやすいのです。まだまだ今が中心の3歳から先を見通せる4歳の時期を迎えると、先を見通していい方向に向かえる判断ができるようになる反面、先が見通せる分「できないかもしれない」自分に不安を抱き、色々なことに自信を持ってなくなる姿も見られます。そのような多感な4歳を過ぎ、5歳になると計画を立てて行動することや、話し合いをすることができるようになってきます。人の話を聞いて自分の考えを組み立て直すことができ、自分たちだけで物事を解決したり、「秘密の世界」など第3の世界であそぶ、少年期の入り口に入っていきます。このように成長していく子どもたちのその時代その時代に私たち大人は子どもたちを丸ごと受け止め、子どもたちが安心して自分を出し、友だちとの関係を作っていけるよう「私はいつでもあなたの味方」という温かい眼差しでみていくことを大切に、その気持ちを大事にゆったりと保育していただきたいと思っています。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。[貸出要項へ](#) 講義の詳細は、[要録ページ](#)をご覧ください。[要録ページへ](#)

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を
進めます。
('子どもを共に育む
京都市民憲章'より)



発行日 平成26年3月19日
 発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
 〒604-0883
 中京区間之町通竹屋町下る楠町601番地の1
 Tel (075)254-5001 Fax(075)212-9909